

子どものメンタルケア 震災の経験で得た教訓を世界に発信



「子どもの前で大人が報道を見るときリアクションに注意する」といった助言が描かれたイラスト。研修員からは「母国の家族ともよく新型コロナのことを話す。家族にもこのイラストを見せたい」との声が聞かれた。(写真はJICA筑波)

新型コロナウイルス感染症の影響により、子どもたちの生活にも大きな変化が生じている。漫画家の井上きみどりさんは2011年の東日本大震災の実体験や被災地の取材などをもとに、子どものメンタルケアについての助言を、イラストと短い文章にまとめてSNSで公開した。

これを見たJICAタイ事務所の職員が、井上さんの承諾を得てタイ語に翻訳。タイでも4月から学校や公園が閉鎖されており、このイラストをフェイスブックで拡散したところタイ国内で大きな反響を得た。他国の事務

所もこれに続き、今では33言語に翻訳されて35カ国に広まり、JICA筑波など日本国内の各拠点でも掲示した。

子どものメンタルケアは世界共通の課題だ。「子どもは元氣そうに見えても、言葉にできない不安を抱えている。コロナ禍下の現状が震災後の被災地と重なった」と語る井上さん。モデルではこのイラストが全学校に配布されたほか、ウガンダでは政府が動画を作成して配信、またメキシコでは掲載したウェブサイトで4万回以上の閲覧があるなど、現在も世界各地で共感が広がっている。

ニュース深掘り! 母国に帰れない研修員に寄り添う支援

JICA筑波では、毎年多くの研修員たちが自国の発展のために研修に参加しています。しかし今年は、コロナ禍の影響で来日している研修員は少なく、また研修終了後も当初の予定通りには帰国できない研修員もいます。彼らは外出自粛などの生活上の制限や母国語の情報不足、自身の健康も心配ななかで、家族に会えない寂しさなど多くの不安やストレスを抱えています。私たちはそんな研修員に、感染予防策や公的機関が発信する情報を英語で伝えたり、ストレス緩和のための臨床心理士を招いた講座、感染予防策を取ったうえで県内の学校を訪問して交流する機会などを提供してきました。

コロナ禍でJICA職員や専門家の現地渡航が大幅に制限されています。私たちは、日本で得た知識や経験を母国へ伝える研修員は、途上国の開発に二層重要な役割を果たす貴重な存在だということを再認識しています。その一助となるよう、同じく日本国内に待機中のJICA専門家と意見交換をする場を設け、技術的な助言を得るなど今だからこそできる取り組みを行っています。日々刻々と変化する状況ですが、外国にいる不安のなかで過ごす彼らに寄り沿いながら継続的にサポートしていきたいと思っています。

JICA筑波
研修業務課
西岡美紀さん(右)
にしおかみき
野村岬さん(左)
のむらみさき

創立40周年を迎えたJICA筑波で研修事業に取り組む。夏季期間はクールビズの一環でスタッフや研修員が個性豊かな民族衣装を着用。



JICA HEADLINE NEWS

- 8月17日 | ▶ **モーリシャス 油流出事故に対する国際緊急援助隊・専門家チーム二次隊派遣**
同国沿岸で座礁した日本の貨物船事故に、10日に出発した一次隊に続き、支援活動。
- 8月11日 | ▶ **セルビア 持続可能な環境に優しい公共交通プロジェクトの開始**
日本式の鉄道運行マネジメント体制導入も生かした技術協力プロジェクト。
- 8月3日 | ▶ **インドネシア 新型コロナウイルス感染症対応のための貸付契約に調印**
円借款による財政支援で、経済活動の維持、社会的弱者の保護、保健医療体制の強化に協力。



◀◀ JICAのニュース&トピックスをもっと読みたい方はアクセス!
<https://www.jica.go.jp/information/index.html>